

# 第7章 測定の記録と評価・個人指導記録

この章では、DLAで測定した日本語能力の結果の記録及び評価の仕方について詳述します。あわせて、児童生徒の個人データの記録の事例を紹介します。

## 【測定の記録と評価】

### (1) 測定の目的

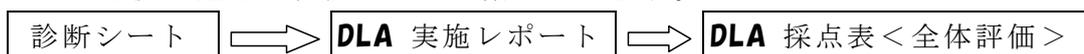
- DLAは、外国人児童生徒の日本語能力を3つの側面（CF／会話の流暢度、DLS／弁別的言語能力、ALP／教科学習言語能力）から把握し、記録するものです。

測定能力 テスト名	①CF (会話の流暢度)	②DLS (弁別的 言語能力)	③ALP (教科学習 言語能力)
●DLA〈話す〉	○	○	○
●DLA〈読む〉		○	○
●DLA〈書く〉		○	○
●DLA〈聴く〉			○

- 記録にあたっては、児童生徒の母語、年齢、入国年齢、滞在年数を記載し、日本語能力を把握するための基礎情報として活用します。
- 評価の結果については関係者間で共有し、児童生徒に対する日本語指導の内容や方法、支援体制の在り方を検討するための基礎資料として活用します。

### (2) 測定後の記録の方法

- DLA実施後の記録は、以下の3段階で行います。



- 測定後の記録は、まず技能別（話す・読む・書く・聴く）の「診断シート」に記録します。
- 次に、「診断シート」で得られた結果を「DLA実施レポート」（p.139）に記録します。
- その後、「DLA採点表<全体評価>」（p.140）に記録します。その際に、「JSL評価参照枠<技能別（話す・読む・書く・聴く）>」で示されている各技能の下位能力の特徴を参照して、ステージを特定します。
- 下位能力は同一ステージになることは希で、でこぼこになることが一般的です。

### (3) 「JSL評価参照枠<全体>」の判定方法

- 「DLA採点表<全体評価>」表の右側にある「JSL評価参照枠<全体>」は、各技能のステージを参考にして判定します。
- その際に、左側に記録した下位能力がでこぼこであるために、全体的な能力のステージを判定することがむずかしくなります。そのような場合には、「JSL評価参照枠<全体>」（p.8）の「子どもの在籍学級参加との関係」から支援の段階を検討し、ステージを判定します。

#### （４）記入例

「JSL 評価参照枠」の＜技能別＞のステージと＜全体＞のステージはその解釈において同一ではありません。子どもの言語能力は個人差が大きく画一的な判定が困難であるために、技能別の下位能力毎の能力記述文が必ずしも全体の能力ステージと一致させられないからです。

後続するページでは、2人の児童生徒の測定結果について、「DLA 実施レポート」と「DLA 採点表＜全体評価＞」への記入例を提示した上で、＜総評＞として結果の解釈を記述してまいります。これらを参考に、結果を有効に活用してください。

#### 【個人指導記録】

子どもの日本語能力は、母語、年齢、入国年齢、滞日年数（四大要因）によって影響を受けるので、子どものステージ判定には、これらの要因にかかわるデータを収集し、参考にすることが大切です。ここでは、ステージ判定や指導に活用する「日本語指導が必要な児童生徒の指導記録」フォーム（後続頁）を紹介します。指導記録には、「基礎データ」と「学習データ」のページがあります。

##### （１）基礎データシート

子どもたちを理解するために必要な情報です。毎年加筆修正を加えて残していきます。家庭内の使用言語、生育歴、学習歴、1年間の累積指導時間数など、母語や日本語の習得に影響がある情報を記載します。

特に移動の多い子どもの場合、生育歴や学習歴の把握は非常に大切です。幼児期に文化や言語間を移動している子どもも多く、幼児期の状況や、不就学期間の有無なども、聞き取りをしておきたいことです。

こうした個人情報に関わる事項を聞くためには、子どもや保護者の母語が分かる通訳や支援者の助けが不可欠で、子どもの指導に必要な情報であるという共通認識が求められます。同時に、取扱いには注意が必要です。

##### （２）学習データシート

DLA のどの部分をいつ実施したかという情報を「DLA 実施記録」の欄に記録します。その他に、児童生徒の日本語や教科の理解の状況や、それに対応する日本語指導の内容や評価、次年度への申し送り等、学習に関わる情報を年度毎に記録します。

日本語指導担当者が変わったり、児童生徒が転校したりすると、それまでの情報が引き継がれず、指導が分断されてしまうことも少なくありません。こうした状況は、児童生徒にとって望ましいことではありません。指導を継続して行うためには、記録を残し、情報を共有することが大切です。小学校から中学校への進学時や、転校時に、指導記録も引き継がれることが望ましいでしょう。

「日本語指導が必要な児童生徒の指導記録」の参考フォームに合わせて、中学校版の記入例を掲載しましたので、参考にご覧ください。

名前： (男・女) 年齢(学年)： 母語：

入国年齢： 滞在年数： 記録日： 年 月 日 記録者：

### DLA実施レポート

実施したものに○をつけ、得点(平均点)を記入してください。

語彙チェック	日本語	日本語	母語	%( /55)	%( /55)
DLA <話す>	実施タスク	基礎タスク ( ) 対話タスク ( ) 認知タスク ( )			
	得点	1	3	5	5
DLA <読む>	実施テキスト	A ・ B ・ C1 ・ C2 ・ D ・ E ・ F			
	得点	1	3	5	5
DLA <書く>	実施課題	W1 ・ W2 ・ W3 ・ W4 ・ W5 ・ W6 ・ W7 ・ W8			
	得点	1	3	5	5
DLA <聴く>	実施DVD	A1 ・ A2 ・ A3 ・ B4 ・ B5 ・ B6 ・ B7 ・ B8			
	得点	1	3	5	5



事例 1 : 9 歳 (小学 3 年生) の男子児童 (日本生まれ) の評価結果

名前: ロドリゴ (男・女) 年齢 (学年): 9 歳 (小 3) 母語: ポルトガル語 (家庭での会話は主に母語, 読み書き不可)  
 入国年齢: 日本生まれ 滞在年数: 9 年 2 ヶ月 記録日: 2012 年 9 月 30 日 記録者: 佐藤 (日本語担当)

DLA実施レポート

語彙力チェック	日本語	87.2 % (48 / 55)	母語	85.5 % (47 / 55)
DLA <話す>	実施タスク	基礎タスク (○) 対話タスク (○) 認知タスク (○)		
	得点	1   3   3.2   5		
DLA <読む>	実施テキスト	A ・ B (○) ・ C1 ・ C2 ・ D ・ E ・ F		
	得点	1   3   3.0   5		
DLA <書く>	実施課題	W1 (○) W2 ・ W3 ・ W4 ・ W5 ・ W6 ・ W7 ・ W8		
	得点	1   1.8   3   5		
DLA <聴く>	実施DVD	A1 ・ A2 ・ A3 ・ B4 ・ B5 (○) ・ B6 ・ B7 ・ B8		
	得点	1   3   4.0   5		

DLA 採点表 <全体評価>

ステージ	DLA <話す>					DLA <読む>					DLA <書く>					DLA <聴く>			JSL 評価参照枠 (全体)	支援の段階						
	話の内容とまとめ	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度	総合	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度	総合	内容	構成	文の質・正確度	語彙・漢字力	書字力・表記ルール			書く態度	総合	聴解力	聴解行動	語彙・表現	総合
6																										
5																										
4	○	○	○	○	○	○	●	○													○	○	○	●		
3								○	○	○		●	○	○	○	○	○	○	○	○	○				●	
2											○			○	○	○	○	○	○	○						
1																										

<総評>

- ・ 二言語ともに、日常よく耳にする語彙はできていましたが、少し低頻度の語彙はまだ身につけていないようです。
- ・ 会話の場面で話したり、聞いたりすることには問題がないですが、教科の知識を必要とする会話では十分な受け答えができませんでした。教科に関する語彙が不足しているようです。
- ・ <読む>では年齢相応レベルの読み物には抵抗を示しましたが、小学 1 年生前半レベルの短い読み物であれば、楽しんで読み、大筋を理解し、感想を言うことができました。音読の力はまだ十分ではありませんが、想像力は大変豊かです。
- ・ <書く>では、書くことへの強い抵抗がみられました。支援を得て、文をいくつか書くことはできますが、段落を作り、まとめた文章を書くのはまだ難しいようです。助詞や表記ルールの間違いも目立ちました。
- ・ <聴く>で測定した授業を聴く力は、少し易しい内容で、映像などの視覚的な助けがあれば、よく理解できるようです。短い時間でしたが、集中して最後まで聴くことができました。
- ・ <話す>、<聴く>は大体ステージ 4、<読む>、<書く>はステージ 3 で、総合的には、まだ個別学習支援が必要なステージ 3 であると言えるでしょう。
- ・ 学年で期待されているレベルより少し下の教材であれば、視覚的な助けや誰かの支援を得て、想像を働かせながら、学習を進めることができそうです。読む、書くことへの抵抗感をなくせるよう、単調な音読練習や書き取り練習ばかりではなく、絵本などの読み聞かせとその後の話し合いや、物語の創作など、励まし楽しみながらできる活動も取り入れるとよいでしょう。JSL カリキュラムを用いた支援も効果的だと思われます。
- ・ 母語での語彙力チェックや母語話者の支援者の話によれば、母語の日常会話力もある程度保持できているようですので、母語でも読み書きを育て、二つのことばから語彙や知識を増やしていけるようにするとよいでしょう。

事例2 : 13歳(中学1年生)の女子生徒(滞在年数2年6ヶ月)の評価結果

名前:リーリン(男・女) 年齢(学年):13歳(中1) 母語:中国語(家庭では母語、年齢レベルに近い読み書き可能)  
 入国年齢:11歳(小5) 滞在年数:2年6ヶ月 記録日:2012年3月15日 記録者:佐藤(日本語担当)

DLA実施レポート

語彙チェック	日本語	92.7%(51/55)	母語	100%(55/55)
DLA<話す>	実施タスク	基礎タスク(○) 対話タスク(○) 認知タスク(○)		
	得点	1 _____ 3 3.8 _____ 5		
DLA<読む>	実施テキスト	A・B・C1・C2・D・E・ <b>F</b>		
	得点	1 _____ 3 3.6 _____ 5		
DLA<書く>	実施課題	W1・W2・W3・W4・W5・W6・W7・W8		
	得点	1 _____ 3 _____ 5		
DLA<聴く>	実施DVD	A1・A2・A3・B4・B5・B6・B7・B8		
	得点	1 _____ 3 _____ 5		

DLA採点表(全体評価)

ステージ	DLA<話す>					DLA<読む>				DLA<書く>				DLA<聴く>				JSL評価参照枠(全体)	支援の段階								
	話の内容とまとまり	文・段落の質	文法的正確度	語彙	発音・流暢度	話す態度	総合	読解力	読書行動	音読行動	語彙・漢字	読書習慣・興味・態度	総合	内容	構成	文の質・正確度	語彙・漢字力			書字力・表記ルール	書く態度	総合	聴解力	聴解行動	語彙・表現	総合	
6								○																			支援付き 自律学習 段階
5	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○													●	個別学習 支援段階
4			○	○						○																	初期支援 段階
3																											
2																											
1																											

<総評>

- ・ <はじめの一步>、<話す>、<読む>を実施しました。時間の都合により、<書く>、<聴く>は実施していません。
- ・ 滞在年数が2年半と比較的短いにも関わらず、<話す>では認知タスク、<読む>では年齢相応のテキストを読むことができ、学習言語の力を含め、大変順調に伸びていると言えます。
- ・ <話す>では、教科用語でわからない語彙があったり、若干の文法的な間違いがみられましたが、説明力が高かったです。
- ・ <読む>では、わからない語彙や漢字、表現はありましたが、その都度、自分から積極的に質問することができまし、新しく知った語彙をすぐに説明の中で使うことができていました。大意を掴む力、口頭で要約する力に優れています。音読ではわからない語彙や漢字でつまずくと流暢度は落ちますが、間違いに気づき修正できますし、黙読もできます。黙読のほうがよく理解できるようです。また、自分がどのように読んでいるかをよく意識できていました。書いてある内容を母語でイメージしたり、確認したりしながら読み進めているとのことで、母語で得た知識が役立ったり、内容をまとめるのに母語を活用している様子が見られました。
- ・ 語彙や漢字の不足、若干の文法的な不正確さではありますが、<話す><読む>ともにステージ5と判定されました。特に、学習に対する意欲が高い点が評価できます。在籍学級での学習を進めながら、新しく学習する語彙や知識をさらに強化できるよう、個別の支援を行うなどの対応が効果的でしょう。二言語での読書を通して得る知識や語彙が多いので、よりよい読書環境を作れるようサポートできるとよいでしょう。インターネットの活用も有効です。
- ・ 家庭での会話は全て母語で行い、母語での教科学習も続けているとのことで、そのことが日本語での教科内容の理解や学習意欲、自信にもつながっているようです。これから受験に向けて日本語での教科学習の内容が益々増え、時間の確保が難しいですが、本人が母語での学習を続けられるように周囲も母語の価値を共有し、サポートしていく必要があるでしょう。